

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑭ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭57-119851

⑮ Int. Cl.³
E 02 F 3/40

識別記号

庁内整理番号
7903-2D

⑯ 公開 昭和57年(1982)7月26日

審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑰ バックホーのバケット

株式会社堺製造所内

⑱ 出 願 人 久保田鉄工株式会社

大阪市浪速区敷津東1丁目2番
47号

⑲ 実 願 昭56-3732

⑳ 出 願 昭56(1981)1月14日

㉑ 考 案 者 津田彰

㉒ 代 理 人 弁理士 谷昇

堺市石津北町64番地久保田鉄工

㉓ 実用新案登録請求の範囲

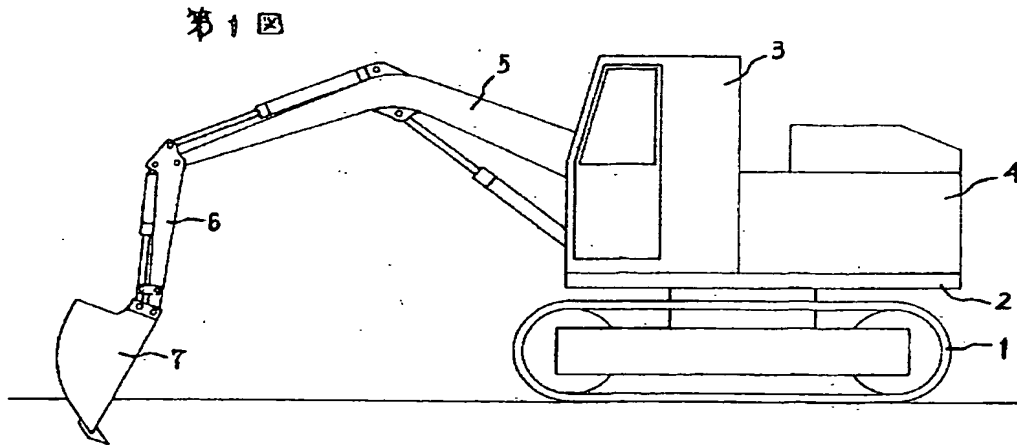
底板、左右両側板等により構成されるバケットにおいて、上記底板と側板の接続部に生じる角部に充填部材を固着したことを特徴とするバックホーのバケット。

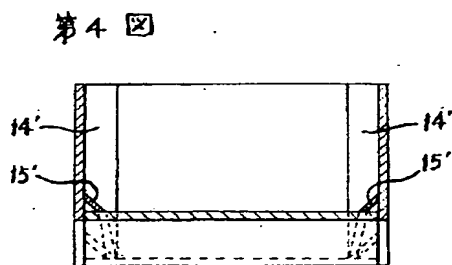
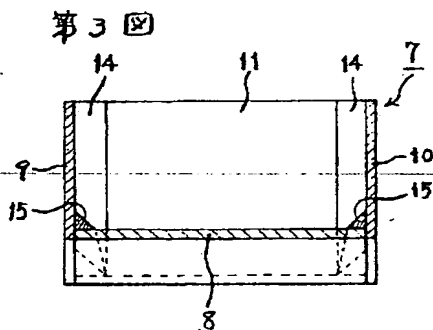
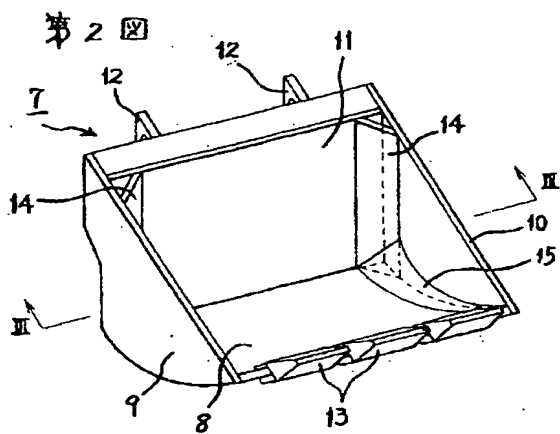
図面の簡単な説明

第1図は本考案バケットが使用されるバックホー

ーの外観側面図、第2図はバケットの実施例を示す単体斜面図、第3図は第2図Ⅲ-Ⅲ線で切断した縦断正面図、第4図は他の実施例の縦断正面図である。

7はバケット、8は底板、9、10は側板、15、15'は充填部材。





公開実用 昭和57—119851



(400円)

実用新案登録願 (B)

昭和 56. 1月 14日
殿

特許庁長官

1. 考案の名称

バックホーのバケット

2. 考案者

住 所

大阪府堺市石津北町64番地

氏 名

久保田鉄工株式会社 堺製造所内
ツダ アキラ
津田 彰

3. 実用新案登録出願人

住 所

大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
大阪市浪速区船場町2丁目22番地 住所訂正

氏 名

(105) 久保田鉄工株式会社

代表者 廣 慶 太 郎

4. 代 理 人

住 所

543 大阪市天王寺区上本町5の3(ヤマトビル)

氏 名

(8.013) 弁理士 谷

電話 大阪 (762) 1362 番

5. 添附書類の目録

(1) 委 任 状	1 通
(2) 明 細 書	1 通
(3) 図 面	1 通
(4) 願 書 副 本	1 通



505

方 式
審 査

56 003732

119851

明 細 書

1. 考案の名称

バックホーのバケツト

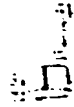
2. 実用新案登録請求の範囲

- (1) 底板、左右両側板等により構成されるバケツトにおいて、上記底板と側板の接統部に生じる角部に充填部材を固着したことを特徴とするバックホーのバケツト。

3. 考案の詳細な説明

本考案はバックホーにおけるバケツトの改良に関し、掘削した土が排出時にバケツト内に残留することを防止するものである。

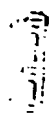
ところで、この種のバケツトは強度、重量或は生産性等の関係で鉄板溶接構造とされるのが通例であるが、このような構造によると該バケツトを構成する底板と左右両側板の接統部に角部が生ずることになり、そのため掘削した土が排出時に該角部に残留し、これが次第にボリュームを増して一操作による土の掘削排出量の減少をもたらし、ひいては作業能率の低下を来たすのである。



本考案はこのような実情に対処するもので、底板、左右両側板等により構成されるバケットにおいて、該底板と両側板の各接続部に生じる角部をブロック状或は板状の充填部材で封鎖することにより、該バケットの内面が滑かに連続する面で構成されるようになし、これにより排出時に土がバケット内に残留することを防止し、作業能率の向上を図るようにしたものである。

以下これを図に示す実施例により説明すると、第1図は本考案バケットが使用されるバックホーを示すもので、走行装置1上に旋回可能として載置されたフレーム2に操縦室3、機関室4等が設けられていると共に、前方に突出せしめられたブーム5にアーム6を介してバケット7が装備されている。次に第2図により該バケット7の構成を説明すると、該バケットは底板8、左右両側板9、10及び後側板11を溶接した構造とされ、後側板11の背面に上記アーム6に取り付けるためのブラケット12が固設されていると共に、底板8の前端縁には複数個の掘削爪13が具備されてい

る。14, 14 はバケット内において左右両側板 9, 10 と後側板 11 の接続部に固着された補強板、また 15, 15 は同じく左右両側板 9, 10 と底板 8 の接続部に溶接或はボルト等により固着されたブロック状の充填部材で、第 3 図に示すように断面が底板と側板に夫々对接する直交二辺と両辺を結ぶ斜辺からなる三角形とされていると共に、底板と側板の接続部における接線に沿つて屈曲状とされており、これにより該底板と側板の接続部に生じる角部が封鎖され、該接続部が滑かに連続する面で構成されるようになされている。従つてバケット 7 により掘削された土は排出される際に該バケット内における底板 8 と左右両側板 9, 10 の接続部に残留することがなく、粘土質の土の場合においても完全に排出されることになるのである。ここで充填部材 15 は金属或は樹脂等で形成されるが、表面の摩擦係数が小さいものが望ましい。尚、図示のように底板 8 と後側板 11 が別部材とされ、両板の接続部に角部が生じている場合は該角部にも充填部材を固着してもよい。ま



た充填部材は第4図に示すように板状の部材15'としてもよく、その場合に該部材と補強部材14'を一体化することも可能である。

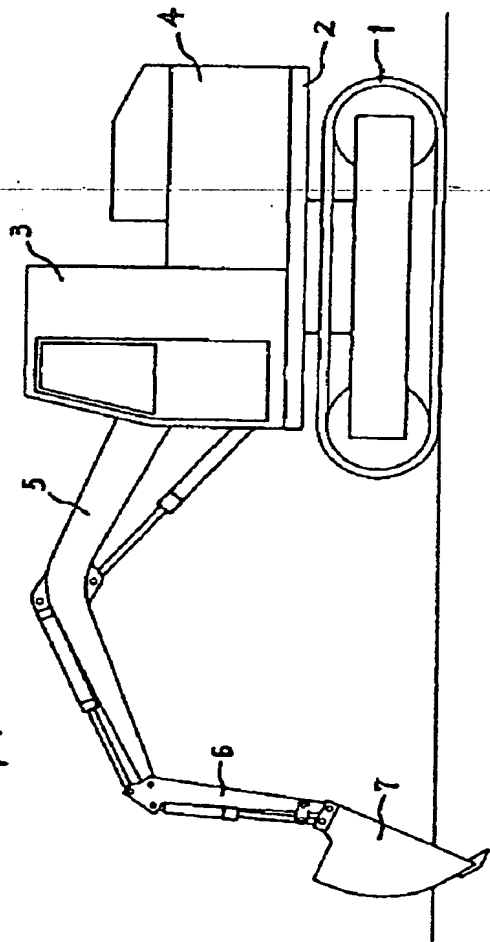
以上のように本考案は、底板、左右両側板等により構成されるバックホーのバケットにおいて、上記底板と側板の接続部に生じる角部に充填部材を固着して該バケットの内面を滑かに連続する面で構成するようにしたから、掘削された土が排出時に該バケット内に残留することが防止されることになり、これにより一操作による土の掘削排出量の減少が防止され、作業能率が向上せしめられる効果を奏するのである。

4. 図面の簡単な説明

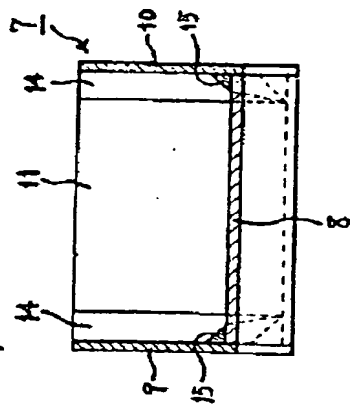
第1図は本考案バケットが使用されるバックホーの外観側面図、第2図はバケットの実施例を示す単体斜面図、第3図は第2図Ⅲ—Ⅲ線で切断した縦断正面図、第4図は他の実施例の縦断正面図、である。

7はバケット、8は底板、9、10は側板、
15、15'は充填部材

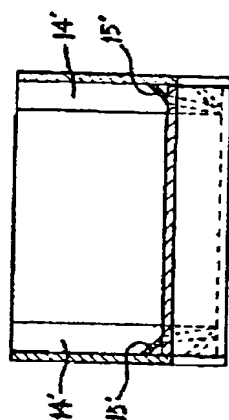
第1図



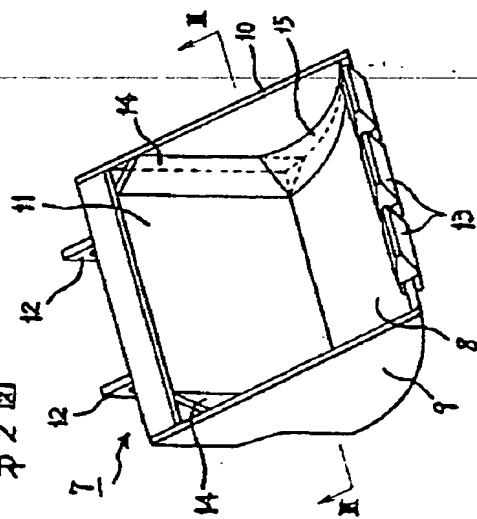
第3図



第4図



第2図



119851

5:10